

最古にして最先端！「道後オンセナート2014」(松山市)

【取組概要】

本市の観光を代表する「道後温泉本館」が改築120周年の大還暦を迎えることから、この機会を逃さず更なる誘客につなげ、さらに過去を振り返りつつ、「道後の更なる100年」を見据えた人づくり、組織づくりを誘発させる仕掛けとして、気鋭のアーティストたちによる最先端のアートフェスティバル「道後オンセナート2014」を年間通して開催。

人口 517,711人

担当部署 産業経済部 道後温泉事務所
取組み事例のURL
<http://www.dogoonsenart.com/>

【取組みの効果】

- ・取材依頼が殺到し、全国放送のテレビやラジオ、新聞、雑誌等でも大きく取り上げられ、数多くの旅行パッケージ商品も開発された。
- ・市民に足を運んでもらえるよう実施した「ランチプレート」は、各旅館ホテルで同じプレート、同じ価格で提供することで創意工夫と競争意識が芽生えた。
- ・ホテルホリゾンタルやランチプレートを実施することにより、互いの従業員が部屋の見学をしたりランチを試食するなど、サービスや従業員のモチベーションの向上に寄与するであろう画期的な交流が生まれた。



ガイドマップ

【他団体へのアドバイス】

観光振興においては、地元からは愛着を、市外県外からは憧れを持ってもらえるよう、行政の一方的な押し付けではなく、地域が一体となって活性化に取り組むとともに、職員が地域に何度も足を運び対話を重ねることによって生まれる信頼関係を構築することが必要である。

【創意・工夫した点】

道後の特性を活かし 昼夜通じて回遊し、宿泊に繋がるような様々なアート作品を展開し、その実施期間をプレオープンから約1年間という長期間(アート作品の展開期間としては最長記録とも言われている。)で設定した。

大手イベント会社へ委託するだけでは、このイベントのノウハウが吸収できないため、地元コンソーシアムと併せて、地元にもノウハウが継承されるよう2段階の委託契約とし、大手と地元が共同で展開できる体制をとった。

国の緊急雇用制度を活用して「インフォメーションセンター」を開設し、地元からモチベーションの高い人材を採用。



「霧の彫刻」 中谷 英二子